



オープンデータ×i-都市再生 地域課題を解決するアイデアソン

令和5年11月に、茅野市は内閣府事業である「i-都市再生」実装支援都市に採択され、オープンデータ化の促進に係る法的整備および「茅野市オープンデータカタログサイト」の利活用の検討を進めています。本事業の取組みの一環で、オープンデータの取り組みの周知および利活用のアイデア創出を目的とした「オープンデータ×i-都市再生で地域課題を解決するアイデアソン」を3月9日にワークラボハケ岳で開催しました。

オープンデータとは？

オープンデータとは、国や自治体などが誰でも自由に使えるように公開しているデータのことです。茅野市では、市が所有する情報のうち、二次利用が可能であると判断したものを順次オープンデータ化し、茅野市オープンデータカタログサイトで公開しています。

アイデアソンとは？

アイデアソンは、「アイデア」と「マラソン」を掛け合わせた造語で、特定のテーマについてグループでアイデアを出し合い、競い合うイベントです。アイデアソンは、自由にアイデアを出し合い、他の人の意見を取り入れながらアイデアを発展させることで、課題解決につながる創造的なアイデアの創出が期待できます。

当日の様子

参加者は地域問わず募集を行い、高校生、大学生、一般の方など幅広い世代の方28名にご参加いただきました。

当日は「遊び」「学び」「健康 医療・ウェルネス」「移住」「防災・減災」「子育て」の6つのテーマに分かれてグ

ループワークを行いました。アイデアを出す方法は、ブレインストーミング（集団でアイデアを出すことで新しいアイデアを生み出す技法）を用いて、テーマに関するコメントなどをふせんに書き出しました。また、各グループ単位で順次席を移動し、全てのテーマについて同様にそれぞれの主観で考えを出していきまし

た。その後、机に収まりきらない量のふせんをグループごとに分けて見出しを付け、アイデアの糸口を探っていきました。

各グループから出たアイデアについて、一部ですがご紹介いたします。（下記参照）

今後に向けて

今回のアイデアソンでは、それぞれのテーマに沿って、解決したい問題や実現したいサービスのアイデアが出ましたが、同時に必要なデータも見えてきました。

その中には、行政が持っているが公開していないデータ、特定の機関や企業しか持っていないデータ、新たに収集しないと存在しないデータなど、様々なデータの種類がありました。

茅野市としては、今回のアイデアソンのような、アイデアを自由に出すことができるイベントの開催や、そのアイデアを実際に形にしていけるようなコミュニティ作りのほか、オープンデータの拡充にも引き続き取り組んでいく予定です。



＝講師＝
株式会社アナザーブレイン
久田 智之 さん

アイデアソンの
動画はこちらから！



今回のアイデアソンで講師を務めた感想

参加者の皆さんに対して、お伝えしたいことや考えていただきたいことが今回はたくさんあったので、どうしても休憩時間が少なめのタイムスケジュールとなり、しかも「ランチタイムもお弁当と一緒に食べながら交流してね」と詰め込みすぎの密度がかなり高いワークショップになりました。

そういった構成にもかかわらず、参加者のみなさんの集中力とご協力によって無事終えることができました。ありがとうございました。

当日の参加者の様子や出たアイデアを受けた感想

みなさんアイデアソンが初めてという方がほとんどだったのに非常に積極的に活発にアイデアを交換されていたのが印象的でした。脳に心地よい汗をかい

たように感じていただけの方もいらっしやったのではないかと思います。

プロセス途中で発散いただいた数々のアイデアを、最後にチームごとにひとつの「こんな地図アプリがあったらいいのイメージ」にまとめて発表いただきましたが、いずれも素晴らしい、とくに「虫と生きる」の発表は地域特性も考慮された秀逸な観点から発想を広げ組み立てられたアイデアだと感じました。また、最後に発表いただいたアイデアだけが重要・大事というのではなく、「初めて会った価値観が異なるであろう人たちと一緒に考えてみる経験とそこにおける発見」を振り返ってみていただいたり、「共有された地域課題とアイデアをふんわりと持ちながら感じるながら生活する（そして行動する）」ことで普段生活している街がどのように見えるか、変わってくるか、変わっていくか、継続して観察してみてください。

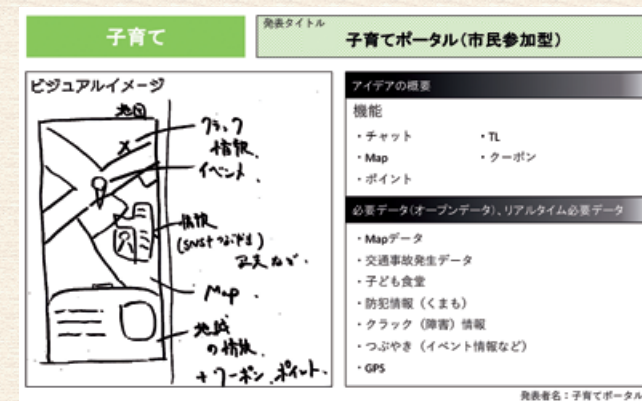
今後の展望について

今回の大きな狙いでもあった「産官学民」（産：公益社団法人諏訪圏青年会議所様、官：茅野市様、学：公立諏訪東京理科大学様・東海大学付属諏訪高等学校様、民：参加者のみなさま）の連携での地域づくりの可能性が感じられました。

ご協力いただいたみなさまには、改めて、ありがとうございます。内閣府・茅野市役所からもチームごとそれぞれにお一方ずつ参加者としてもご参加いただき、またお忙しい中、茅野市長様も発表に足を運んでいただいていたこと、本当にありがとうございます。

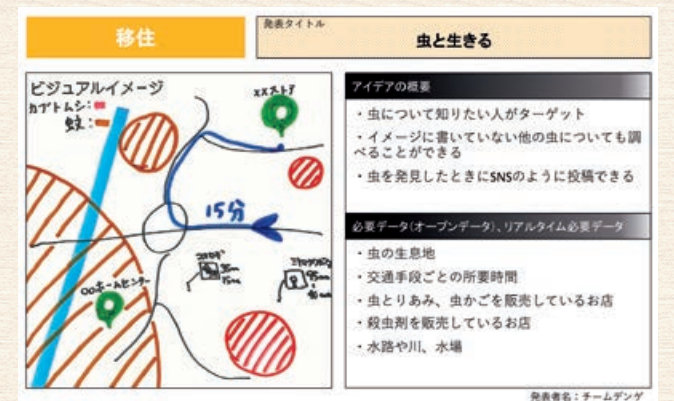
今回のワークショップにとどまらず、諏訪地域でのシビックテック（Civic Tech：市民（Civilic）がテクノロジーを活用して地域課題解決を目指す取り組み）の輪が広がっていくといいなと思いますし、微力ながら私も活動していこうと考えています。今後は、今回のアイデアソンを発展させたハッカソンを諏訪圏で実施しようという準備を進めていますので、今回の参加者の皆さんはもちろん、興味を持たれそうなお知り合いに参加のお声がけいただけると嬉しいですよ。

＝「子育て」グループ＝



チャット、マップ、ポイント、クーポンなどの情報を地図上に表示させる機能を持つポータルサイトのアイデアです。地域のお得な情報だけでなく、交通事故発生データや熊の出没情報なども表示させることで、安心して子育てができる環境を作ることができるサービスです。今は別々に存在しているSNSなどの情報が、地図上の一画面上に表示されるようなイメージを持ちました。このアイデアも移住グループと同様、つぶやき機能によってデータの質を上げていくことにつながるアイデアです。

＝「移住」グループ＝



地図上に虫の種類や生息地などの情報が表示され、虫を発見したときにSNSのように投稿できる機能も持ったサービスのアイデアです。カブトムシなどの採集されることが多い虫だけでなく、蚊などの害虫の情報も表示されるため、人によって違う虫の捉え方に対応できるのが画期的です。また、投稿機能があることによって、データの内容を増やしていくことができるのも素晴らしいです。情報の信頼性については、また議論を深める必要がありそうです。